



夏季リーダーシップ・トレーニング・センター(トレセン)



ふれあいの窓

かごしまJRC

発行所
鹿児島県青少年赤十字
指導者協議会

事務局
日本赤十字社鹿児島県支部
鹿児島市鴨池新町1番5号
電話(代表)099-252-0600

子どもたちは 確実に育っている

県青少年赤十字指導者協議会
会長 日高京美



日本の青少年
赤十字は発足一
〇二年を迎え、
「気づき、考え、

実行する」を合言葉に、優しさや思いやりの心をもって自ら進んで人の役に立とうとする子どもたちを育てる活動をしています。日本赤十字社県支部、指導者協議会、賛助奉仕団が協力しながら、令和六年度も年間計画に沿って研修会等を実施してきました。その中で感じたことを記したいと思います。

コロナ禍明け、昨年度は台風で中止になったため、五年ぶり八月に二泊三日の小中合同トレセンを実施できたことは大きな成果でした。そして、十一月に実施した中学校の一日トレセンに夏季トレセンに参加した生徒も参加しており、夏季トレセンで実施した「防災すごろく」を生徒会長を務める自分の学校でも是非やりたい、データがほしいと語る姿に触れたことは更なる

青少年赤十字

実践目標
健康・安全、奉仕、国際理解・親善
態度目標
気づき、考え、実行する

喜びでした。子どもたちは確実に育っていることを実感し、次なる活動への活力を得た出来事でした。しかし、十一月に予定されていた小学校の一日トレセンが参加希望者が極端に少なかったため中止せざるを得なかったのは非常に残念なことでした。開催行事の重なりがあったとはいえ、トレセンは青少年赤十字の下に同じ志をもった他校の児童と触れ合う絶好の機会です。是非来年度は多くの学校から参加があることを願います。

学校の教育活動のすべてが青少年赤十字活動の理念に通じています。一〇二年の歴史を受け継ぎ、未来ある子どもたちのために共に進み続けていきたいと思います。

感性の「気づき」

県青少年赤十字賛助奉仕団
研修推進部長 福留隆二



教員になり、二校目の学校の職員室に「子ども」の感性に敏感であれ」という揭示がしてありました。青少年赤十字活動

に関わり、二十八年になりますが、この「感性」という言葉は私の頭から離れることはありませんでした。今振り返ってみると、この「感性」という言葉は「気づき」と同じ意味だったのかもしれない。

青少年赤十字のリーダーシップ・トレーニングセンターには「先見」の時間が組まれることがあります。この「先見」は見通しをもつことであり、その見通しは経験や豊かな感性から培われた「気づき」だと思います。私は、「気づき」の力を高めるには、いろいろな経験を積むことはもちろんですが、相手の立場や思いを想像できる豊かな感性が必要ではないかと考えています。

青少年赤十字の活動は自分が良いと思うことだけを優先しては、うまくいかないことがあるようです。相手の立場や思いを謙虚な気持ちで考える「感性」を磨くことにより、よい「気づき」につなげていけるのではないかと考えています。

集団生活の中で、積極的な行動をすることは大切なことですが、時には歩みを止めて振り返り、再度行動を進めていくことも必要なことかもしれません。良い「気づき」は「人道」を支える根幹になっていると信じています。

令和6年度 青少年赤十字 研修・講習会

夏季トレセン

令和六年八月五日(月)～七日(水)

鹿児島情報高等学校

大庭 洋行



全校種合同でのトレセン、昨年は台風のために直前の中止が決定。実質的には今年が合同トレセンとしての初年度である。離島トレセンでのノウハウなどを活かしながら、どのようなカリキュラムにしていくなか悩んだ。結局は、「リーダーシップとは何なのか」を大きな柱として、カリキュラムを組むことにした。リーダーはひとりでも、リーダーシップはみんなが持つべきものであることを伝えることにした。トレセンが進むうちに、参加者の経験値の違い、参加者のトレセンへの思いの違いを実感したが、「リーダーシップの意味を伝える」という大きな柱があったために、その時々には確かなアドバイスや問いかけがスタッフからなされたのではないかと思う。

スタッフの先生方に対して、何かと失礼な言動もあったように反省をする。この青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターの意義や赤十字の理念を伝えていくことの大切さを共有している仲間がいることに感謝の念でいっぱいである。

中学校一日トレセン

令和六年十一月三十日(土)

鹿児島市立谷山中学校

田之上 真由美



十一月三十日に、生徒会の新役員を中心にした一日トレセンが実施されました。はじめ緊張した面持ちだった参加者もアイスブレイキングで夏季トレセンからの継続参加者たちの積極性に触発されて次第に緊張感がほぐれて会場の雰囲気も和やかにになりました。午前中は、非常食作り(ハイゼックス)や赤十字や青少年赤十字について学習しました。昼食は炊き上がったばかりの非常食をいただきました。

午後は喜入・加世田・谷山の三中学校の生徒会活動発表があり、その後、各グループで情報交換をしました。そこで得たことをもとに今後学校で取り組んでみたいことを各自で考えて、企画書にまとめました。

閉会式後は自信と意欲に満ちた参加者の姿がありました。賛助奉仕団の先生方には朝早くからご協力いただきました。ありがとうございました。ございました。

今回のトレセンでの学びを今後の生徒会活動に活かしてくれることを大いに期待しています。

離島(沖永良部島)トレセン

令和六年七月六日(土) 沖永良部島

鹿児島情報高等学校

大庭 洋行



今回も、社会福祉協議会の方々を中心に地域の方々に助けられ、深く感謝したい。特に選挙が翌日に控え、その準備にもお忙しい中、様々な調整をいただいた。

離島トレセンでは、日頃から、地域一体とした健全なコミュニティが形成されていることを実感する。そのことがトレセンの中で活かされていると思われる。参加者がその年齢で培われるべきリーダーシップを発揮し、その姿は夏に行われるリーダーシップ・トレーニング・センタールにひとつの道筋を見出すことができる。

離島のトレセンで蒔いた種が、国頭小学校のガジュマルのように、地域に大きく根

ざし、広がっていき、願いがあつていくことを願うが、沖永良部をあとにした。

校長(園長)・教頭・指導主事等対象
青少年赤十字研修会

令和六年六月二十二日(土)

学校運営にどう活かすか

南さつま市教育委員会 岩下 修一

校長(園長)・教頭・指導主事等対象青少年赤十字研修会は、六月二十二日、校長四名、教頭四名、指導主事二名が参加し開催されました。



プログラムの山場は事例発表や情報交換です。ここで参加者は、学校教育目標の具現化のために「青少年赤十字をどのように活かすか」を学び、意見交換することができました。特に事例発表での中郡小学校の実践は、児童の自己有用感・自己肯定感を高めるために「気づき・考え・実行する」の態度目標を合言葉に、JRC委員会を中心に取り組んでおり、大変参考になりました。参加者からも「主体性や非認知能力の育成等、近年問われている教育課題を解決する素晴らしい取組だと思った」といった感想が聞かれました。

令和6年度
青少年赤十字活動
推進事業校(園)の
取り組み

武幼稚園(鹿児島市)

●気づき・考え・実行する子どもの育成

武幼稚園では、「気づき・考え・実行する子どもの育成」をテーマにJRC活動に取り組みました。

一人一鉢栽培

- ・【五月】年少)マリーゴールド、(年中)トレニア、(年長)ピーマン
- ・【十一月】年少)チューリップ、(年中)クリサンセマム、(年長)ヒヤシンス



栽培活動を通して、命の大切さを学ぶとともに、進んでお世話をする態度を養うことができました。

二 わくわくランド(異年齢活動)

【五月】しゃぼん玉遊び
「小さな幼稚園で大きな教育を」のスローガンのもと、異年齢による活動の一環として、しゃぼん玉遊びを行いました。上級生が下級生に対して優しく接する姿が多くみられました。

三 校区文化祭での発表

【十一月】舞台発表、展示発表
武校区まちづくり協議会主催の文化祭に毎年出演し、国歌の斉唱やクラスごとの



鹿児島市立桜島中学校

●わたしたちができるJRC活動

本校では、JRC活動の実践目標である「健康・安全は、「健康教育の推進」「安全指導、防災教育の充実」「食育、給食指導の充実」等で取り組んでいます。『奉仕』は、朝のボランティア活動、地域清掃活動、観光ボランティアガイドで取り組んでいます。『国際理解・親善』は、英語科のオンライン交流で取り組んでいます。

それらの活動の中でも、生徒が主体的に取り組んでいるのが「朝のボランティア活動」と「地域清掃活動」です。今年度は、夏休み期間中に「高齢者福祉施設訪問」も行うことができました。「朝のボランティア活動」は、正門付近の清掃活動を行いました。多くの生徒が、この活動に自



主的に参加し、さわやかな朝が始められています。「地域清掃活動」は、毎年十二月に行われる持久走大会に合わせて、桜島フェリーターミナル周辺に広がる観光地のゴミ拾いを行います。生徒は環境美化に対する意識が高まり、環境保全や地域貢献の意義を学んでいます。



「高齢者福祉施設訪問」は、コロナ禍でしばらく途絶えていましたが、今年、再開することができました。吹奏楽部の演奏や生徒会有志の朗読、高齢者との交流ができました。施設を利用する方から「ありがとう」、「また来てね」等の言葉をいただき、ボランティア活動に満足感や達成感、幸福感を持つことができました。

九州ブロック 青少年赤十字指導者養成講習会

令和六年八月十九日(月)～二十日(火)

九州ブロック青少年赤十字 指導者養成講習会に参加して

いちき串木野市立串木野小学校 堂園 朝晴

青少年赤十字の活動と出会ったのは、約一年前、私がJRC委員会の担当教諭となったときである。それまでは、なんとなくボランティア活動を児童に勧めていた私の意識が変わった。特に、「気づき」「考え」「実行する」の三つのキーワードは、私のこれからの教員人生において必要不可欠になるであろう要素だと考えた。そのため、より青少年赤十字活動について考えを深めたいと思い参加した。

九州の各県から代表の先生方が参加し、意見交流やフィールドワーク等を通して、JRCと学校教育との関わりであったり、リーダー的人材を育てる必要性、災害時の対処方法・防災教育についてなど、



日頃学ぶことができない事柄についてたくさん知ることができた。今回の講習で得た学びを自校での教育活動に積極的に生かしていきたいと思う。

青少年赤十字指導者中央講習会

令和六年十一月四日(月)

指導者として

鹿児島情報高等学校 宿口 泰伸

鹿児島県の高校JRC活動は、コロナ禍をきっかけに、定例活動や学校同士の交流などこれまで築き上げたものがなくなり、コロナ禍を終えた今、新たな体制を立て直す必要がある。そのヒントをもらいたく十一月四日に本社で行われた「青少年赤十字指導者中央講習会」に参加した。他県の先生と研修を進める中で感じたことは、「ボランティアをしたいと思う子どもたちへ活動するきっかけを提供する仕組みづくり」の重要性であった。生徒の現状を踏まえ、JRC活動へ興味が湧き取り組みを数多く聞くことができ、とても参考になった。ワークショップとして行った「ポスター型教材作成」では、「気づき」に着目した生徒たち



への働きかけについて自分自身が「気づき」を多く得ることができた。この研修の成果を活かし、もう一度鹿児島県の高校JRC活動活性化に向けて尽力していきたい。

令和6年度青少年赤十字 加盟校(園)数

- 幼稚園(11) 保育園(26)
- 認定こども園(16) 小学校(246)
- 中学校(98) 義務教育学校(7)
- 高等学校(20) 特別支援学校(3)

計 427校(園)

★令和6年度 新規加盟校(園)

- 【小学校】南さつま市立益山小学校
日置市立花田小学校
薩摩川内市立祁答院小学校
始良市立西始良小学校
錦江町立大根占小学校
西之表市立安城小学校
中種子町立納官小学校
南種子町立島間小学校 (8校)

- 【義務教育学校】
十島村立平島学園 (1校)

以上 計9校(園)

「100文字作文コンクール」支部長賞受賞者

令和6年度は、小・中・高等学校から101校 8,344点の応募がありました。支部長賞と学校賞は以下のとおりです。

支部長賞

- 小学校(低学年)部門 「みんなできれいに」
鹿屋市立祓川小学校 2年 西別府 愛彩
- 小学校(中学年)部門 「ほくの使命」
鹿屋市立寿北小学校 3年 小牟田 陸
- 小学校(高学年)部門 「みんなで協力して完成させた学級旗」
鹿児島市立武岡小学校 6年 上久木田 陽愛
- 中学校部門 「優しい心でうまる川上の畔町」
いちき串木野市立市来中学校 2年 内田 あかり
- 高等学校部門 「出発進行」
鹿児島情報高等学校 3年 大西 智葉

学校賞受賞校

- 鹿児島市立武岡小学校 鹿児島市立福平小学校 鹿屋市立寿北小学校
- 出水市立鶴荘学園 鹿児島市立郡山中学校 神村学園高等部